

(参考様式6)

事業活用活性化計画目標等評価報告書

作成日：令和2年8月26日

ふりがな	かつらぎちょう
活性化計画名	かつらぎ町地区活性化計画
ふりがな	わかやまけん かつらぎちょう
計画主体名	和歌山県、 かつらぎ町
計画主体コード	300004 303411
計画期間	平成24年度～平成28年度 平成29年度～令和元年度（改善計画）
事業実施期間	平成24年度～平成27年度
活性化計画区域	かつらぎ町全域

1 事業活用活性化計画目標の評価等

(1) 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値 A	実績値 B	達成率(%) $C = B / A$	備考
交流人口の増加	【改善期間3年間累計の増加率】 30.94%	104.52%	337.81%	

(コメント)

国道480号沿地域振興交流施設において、地元の特産物である柿のPRとしてハロウィン塗り絵など子供向けのイベントを増やすとともに、体験コーナーでの加工体験について平成30年度では春と秋だけであったのを春から秋まで通して行えるように体験メニュー・回数を増やすなど集客に取り組んだ。

また、京奈和自動車道PA内施設においても、昨年同様に農産物やかきもち・だんごなど地域産品のイベント販売を実施した。これらの取組等により、令和元年度には、京奈和自動車道PA内施設、国道480号沿地域振興交流施設の両施設では交流人口が年間15万人以上となり、改善計画の目標を上回る実績となった。

(2) 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	地域連携販売力強化施設	
事業内容及び事業量	京奈和自動車道PA内施設 国道480号沿地域振興交流施設	建屋(鉄骨造)1棟 416m ² 附帯構造物 348m ² 建屋(木造)3棟 834m ² 駐車場等 5,087m ²
事業実施主体	かつらぎ町	
管理主体	かつらぎ町	
事業着手年度	事業竣工年度	供用開始日
平成24年	平成28年	京奈和PA側 平成27年5月2日 国道480号側 平成29年4月1日
事業の効果	<p>都市農村交流の拠点施設、町の特産品や観光情報の発信拠点として、物産販売・飲食等施設を整備し、柿・みかんなど地元農産物や加工品の販売に加え、柿の葉寿司などの地域食材を活用した料理の提供、町内の観光農園や農泊情報の提供等を行ってきた。また、国道480号沿地域振興交流施設では各種加工体験の開催により都市住民との地域間交流の場を提供している。</p> <p>これらの取組により、交流人口が増加し、地域農産物の販売額の増加、新たな雇用の創出や地域の語り部との連携など地域の活性化に効果をあげている。</p>	

(3) 総合評価及び今後の方針

<p>(コメント)</p> <p>都市農村交流の拠点施設、町の特産品や観光情報の発信拠点として物産販売・飲食等施設が整備されたことにより、活性化区域外からの集客が増加し、道の駅での販売も堅調である。そのことから施設整備の効果として交流人口の増加のみならず、地域の農産物の販売促進にもつながったと考える。</p> <p>一方で、交流人口の増加に係る計画目標は達成したものの、整備した施設の年間入込客数は減少してきており、更なる町の活性化に向けて今後も施設の活用を推進していくことが重要である。具体的には、京奈和自動車道かつらぎ西PA上り線の売り場面積の拡大や自力で出荷できない高齢農家や小規模な農家に対する町内農産物の集出荷請負業務に取り組むなど農産物の販売を促進するとともに、観光PRや各施設でのイベント等を通じて更なる交流人口の増加に努めていきたい。</p>
--

(4) 第三者の意見

第三評価者	(所属) 和歌山県農業農村振興委員会 農業及び農山村の振興に係る第三者部会	(氏名)
(コメント)		
<p>京奈和自動車道PA内施設、国道480号沿地域振興交流施設の両施設について、交流人口に係る改善計画の目標は達成できた。今後、安定した経営を進めていくためには、交流人口だけでなく、売上や客単価を把握・分析し、事業運営に反映していく必要がある。特に、地域の活性化としては、地元産品の販売動向にも注視しながら取り組む必要がある。また、当該施設整備後の地元の農家の反応やイベント等の情報発信の方法と交流人口の変動の関係なども分析して、今後の運営に活かしていただきたい。</p>		

2 活性化計画の目標の評価等

(1) 活性化計画の目標の達成状況

活性化計画の 目標及び達成度	目標	町内への観光客入込数を年間1,251千人確保する。		
		目標値 A	実績値 B	達成率(%) $C = B / A$
		1,250,762人	1,461,483人	116.84%

(2) 今後の方針

(コメント)
<p>活性化計画の目標である町内全域での年間入込客数についても、目標値以上の実績を確保しており、道の駅を訪れた利用者が町内の他の観光施設に行く、観光施設に行った人が道の駅に立ち寄ってくれるなど、当該交流拠点施設の整備により相乗効果が現れている。今後は、大学との連携事業による調査結果も踏まえ、各施設の特色に応じた誘客方針を検討し、地元農家との連携による品揃えの多様化や観光農園をはじめとする町内の観光拠点の情報発信を併せて行うなど、当該施設の魅力向上に努め、更なる交流人口の増加及び地域農業の活性化を図っていききたい。</p>

(3) 第三者の意見

第三評価者	(所属) 和歌山県農業農村振興委員会 農業及び農山村の振興に係る第三者部会	(氏名)
(コメント)		
<p>京奈和自動車道PA内施設、国道480号沿地域振興交流施設の両施設と町内の既存観光施設との連携により、かつらぎ町への年間入込客数の目標は達成できた。今後、更なる地域の活性化にあたり、交流人口に加え、地元産品の販売額や客単価などの動向をしっかりと把握し、取り組みを進めていただきたい。</p>		